

第 19 回ジャパンプラシック

PL 選手権大会レポート

平成 27 年 3 月 7-8 日

和歌山県広川町民体育館

報告写真：JPA 監事 IPF 国際審判

Team Ponze 代表

物江 毅



会場全景

今年のジャパンプラシック PL 大会は 3 月 7-8 日、和歌山県広川町民体育館で開催された。

選手の頑張りや勿論の事、主管の和歌山協会及び近畿ブロックの役員の方々、関西学連を中心とした補助の方々の頑張りにより、盛会となった。

広川町民体育館は、風光明媚な湯浅広港に隣接、広川町役場の敷地に立地している。広い駐車場を有し、館内スペースも十分な広さだ。館内は収納式の観客席が階段状に引き出され、数百名の観戦が可能のようにセッティングされていた。

9 月の和歌山国体公開競技パワーリフティングもここで開催される。3 月 6 日の 16:00 過ぎ下見に立ち寄ったが、主管和

歌山協会の皆さんが 17:00 頃までには、会場セッティングをほぼ終えておられた。

3 月 7 日第 1 セッションは、女子全員と 59kg 級であった。

A グループ

女子 47・52・63kg 級

47kg 級

今大会常連の可児理恵選手が、ご主人のサポートを受け、SQ は三試技とも決め 105kg、BP は第一試技のみの 72.5kg、DL は二試技取り 147.5kg TL330kg 級で優勝、フォーミュラー重量では、447.24 の高ポイントで 3 位であった。理恵さんは BP と DL が不本意だったと試合後語っておられたが、DL は



ご主人と二人三脚、47kg 優勝の可児選手



女子ベストリフター 2 位、試技に入る古屋選手

で発揮出来るようになれば、表彰台も見えてくるという印象だ。これからも頑張ってと一緒にトレしましょう！

このクラス JR は抜群のルックスを誇る南采沙選手 (関西学連・京都学園大学 PL 部) が SQ100.5kg(JR 日本新) BP70kg(JR 日本新) DL110kg TL280.5kg で優勝した。

63kg 級

日本女子 PL 界の至宝・北村真由美選手が昨年の骨折から見事復活、古屋さん同様全試技成功・全種目日本新の SQ151kg BP103kg DL171kg TL425kg フォーミュラー 458.09 でベストリフター獲得かつ圧勝。DL で 171kg を引ききった際の会心の笑顔が印象的だった。しかも試合後師匠の浅間成敏さんと一緒に補助に入られ、甲斐甲斐しく働いておられた。この真由美さんの姿を、会場に居合わせた選手や役員の多くが即日 Face book に

下述する古屋さんよりも後に登場し、体重の 3.17 倍を引ききった。ご主人の試技の際にはサポートに入り、拝見していても感じの良い、仲の良いご夫妻という好印象であった。

同級 JR は関西学連・阪南大の早川琴果選手が TL245kg で優勝した。

52kg 級

日本女子ノーギア PL & BP 軽量級の第一人者・古屋典子選手が 9 試技全部成功という抜群の安定感で SQ120.5kg(日本新) BP98.5kg(日本新) DL142.5kg TL361.5kg(日本新) で 2 位に 119kg の差をつけ圧勝、フォーミュラーでは 453.35 で 2 位であった。このクラス 2 位は岡山の中田佳見選手で TL242.5kg、3 位は大健闘、地元の M3(私と同じ生年です) 吉見喜代子選手が TL217.5kg で入り、今大会男女とも団体戦大躍進の TXP 所属糸井千都香選手が TL207.5kg で 4 位、5 位ボディビルダーでパワーの全国大会初参戦の松井陽子選手が TL197.5kg という結果であった。糸井さんは私が TXP で週末トレする際に、ご一緒する機会が多いのだが、今回全国大会初出場ということで、SQ と BP がいつもの練習時の力からすると不本意であったと思われる。試合慣れし、普段の力が十分に試合



全種目日本新、骨折から見事復活、女子ベストリフターの北村真由美選手



北村選手に迫る活躍、女子 63kg 級、ジュニア優勝寺原選手

記事をUPし、感動で涙が出た旨、報告していた。

2位は国際大会でも大活躍しておられる驚異のM3・林久子選手がTL317.5kgで入り、3位は、こちらもM3、昨年暮れメルボルンで開催されたアジア・オセアニア共催PL大会で活躍された中島美代子選手がTL262.5kgで入った。4位は気合の試技でお馴染みの吉原千恵選手 TL260kg、DLが第一試技112.5kgのみしか取れず、不本意であったようだが、引ききる際に膝に乗せる様に見られるフォームの改良が必要であろうと感じた。

このクラスのJRは美貌のパワーリフター・寺原万留々選手(関西学連・京都学園大学PL部)が健闘、SQ150kg BP75kg(JR日本新) DL160kg(JR日本新) TL385kg(JR日本新)という結果であった。寺原さんのSQとDLは女王北村さんに重量を被せるような試技で、強烈な強さを感じた。

Bグループ 女子57・72kg級

57kg級は優勝居鶴直子選手で8試技成功、SQ110kg BP70kg DL155kg(日本新) TL335kg、2位は光部和子選手 TL310kg、3位はフルギアの強豪・寺村美香選手がTL295kg、4位洲上宏恵選手 TL290kg、5位前野由衣選手 TL255kgという結果であった。前野さんは2/1に行われたウエストトーキョーPL大会で腰を負傷し、残念ながら本来の力が発揮できなかった。

このクラスサブJR優勝は浦野萌々選手でTL185kg、JR優勝は堤彩夏選手 DL143kg(JR日本新) TL298kg、2位寺石知央選手 TL287.5kgという結果であった。

72kg級

上田早穂選手の力が抜きん出ており、2位にどの位の差をつけて勝つかが見所であろうと思われていたこのクラス、試技が開始され上田さん SQ150kg BP90kg サブTL240kgと順調であったが、DL160kgが第一、第二試技とも引けず、あわやと思われた第三試技、辛うじて同重量を引き切り TL400kg(日本新)で優勝。2位は TL342.5kgで鈴木恭子選手、3位はTXP女子キャプテン格、新婚の金子睦選手が TL312.5kg、4位後藤啓恵選手 TL215kgという結果となった。

JRでは、窓場加津紗選手が上田さんに迫るような強さで SQ145.5kg(JR日本新) BP80.5kg(JR日本新) DL165kg(JR & 一般日本新) TL391kg(JR日本新)という凄さであった。



女子75kg級、左から2位鈴木選手、優勝上田選手、3位金子選手

C グループ 女子 43・84kg 級 男子 59kg 級 43kg 級

JR の軽量級第一人者根本梢選手が最後の JR として登場、減量のためかやや身体が小さくなった印象であったが、全種目とも第三試技では日本記録に挑むという見せ場を作ってくれた。SQ75kg BP50kg DL125kg TL250kg で優勝、JR 卒業の花道を飾った。

84kg 級

優勝は斉藤ゆき選手 SQ132.5kg(日本新) BP71kg(日本新) DL140kg TL395kg(日本新)、2 位は躍進の TXP から参戦した曲澤彩香選手、8 試技成功と安定しており、SQ95kg BP60kg DL110kg TL265kg という結果であった。

男子 59kg 級

2 週間前茨城県つくば市でのジャパンオープン BP & 一士・二官 BP 大会でも大活躍した蛭原孝晴選手が BP の力の差で他選手に競り勝ち、SQ191kg(日本新) BP140kg DL215kg TL546kg(日本新) で優勝。2 位は DL の強い大谷剛史選手が TL517.5kg、3 位は TL472.5kg で古賀翔太選手という結果であった。

サブ JR は津崎琳選手が TL405kg で優勝した。

JR は優勝が山本進吾選手 TL432.5kg、2 位谷澤直紀選手 TL405kg、3 位鈴木康之選手 TL395kg。教職員は中出裕己選手が TL400kg で優勝という結果となった。

第 2 セッション D E F グループ 男子 83kg 級



よし、あれを取るぞ！パーベルという標的に挑む選手

この 83kg 級で常勝、PL 界の玉三郎・福島勇輝選手が出場したこのクラス、DL の最終試技まで優勝が決まらない大接戦となった。

D グループ

サブ JR・JR 教職員と一般の一部の試技が行われ、サブ JR は、伊藤直登選手が SQ200kg BP140kg DL200kg TL540kg で優勝。

JR は、優勝 古川潤選手 SQ230kg BP112.5kg DL260kg TL602.5kg、2 位 西本翔選手 TL565kg、3 位渡部泰弘選手 TL557.5kg、4 位 TXP の坂本寛明選手 TL547.5kg という結果であった。教職員は、F グループで試技した富永忠秀選手が SQ225kg BP145kg DL220kg TL585kg で優勝した。2 位は門屋聡太選手で TL485kg、3 位堀切遼一選手、TL482.5kg という結果となった。

E グループ

E グループで試技した馬倉実選手は、地元和歌山協会の役員で、大会準備で大わらわな中での出場であったが、49 歳という年齢ながら SQ215kg BP122.5kg DL210kg TL517.5kg に成功、大健闘された。

F グループ

有力選手が集ったこのグループ、SQ でトップに立ったのは、前年度白馬大会の同級チャンプ・東京の横田正敏選手 235kg、2 位に同記録体重差で DL の鬼・千葉の松本一人選手、3 位日高豪志選手 232.5kg、以下永井肇選手 225kg、福島選手 220kg、信田泰宏選手 210kg という順位であった。横田さんは、私が前に BP を教えていただいていた増田博之さんからコーチを受けており、私とは兄弟弟子に近い間柄である。第二試技で 235kg を深くしゃがみ過ぎ立てず失敗であったため、試技後「あんなに深くしゃがまなくてもいいよ」とアドバイスをした。第三試技後に、私のそばに来て「お陰で (第三試技) 成功しました。絶対に優勝します!!」と爽やかに力強く宣言してくれた。

BP に入るとシングル BP では断トツの力を持つ福島さんが 195kg、次にやはり BP の強豪・信田さんが 190kg と他を引き離す。日高選手 152.5kg、横田選手 150kg という記録で、サブ TL は 1 位福島さん 415kg、2 位横田さん 385kg、3 位同記録体重差で日高さんという順位であった。

DL は第一試技で福島さん 220kg、日高さん 240kg、横田さん 245kg に成功、TL635kg から 10kg の範囲で 3 選手が絡む大接戦となり、MC の塩田兵庫協会理事長が、Good lift を見ながら、巧みに解説を入れる。

DL 第二試技、福島さん 230kg を引き切るも肩の返しが甘く失敗判定。日高選手は 252.5kg に成功、横田さんは 255kg に挑み、途中止まりかけたが最後までバーベルを引ききった。判定は主審の帯谷 1 級審判員が白、副審二人が赤で失敗判定であった。私はこの試技を大会役員席で見いていたが、成功試技と判断したため、陪審員席に走った。抗議は認められ判定覆しで成功となり、横田選手 640kg、日高選手 637.5kg、福島選手 635kg で最終試技を迎えた。(ちなみに私は部外者の判定抗議ということで、15,000 円の支払いを陪審員長から命じられ、支払いをした。本邦の有償抗議第 1 号との事であった)

DL 第三試技福島さん 230kg に再挑戦、引ききったがやはり肩の返しが甘く TL635kg で終了、3 位以下が確定し

た。横田選手の第二試技 255kg を見た日高選手は 262.5kg を申請した。日高さんは勝負強く、昨年 6 月の全日本 PL 富山大会でも最終 DL 試技を引き切り逆転で 3 位に入っている。渾身の力を込めてバーベルは引ききられ膝もロック、肩も返され白 3 本の成功判定、TL を 647.5kg とした。ここで体重の軽い横田さんは、申請した 265kg を同記録体重差勝利狙いに変え、262.5kg に変更して試技するものと思われたが、何故か重量変更せず 265kg に挑み、第二試技 255kg よりも軽く同重量を引き切り TL650kg とし、熱戦にケリをつけた。

翌日、横田さんから「昨日は有難うございました」と挨拶された私は「何故第三試技重量変更しなかったの?」と尋ねた。「TL を何としても 650kg に乗せたかったのです」という答えが返ってきた。表彰式では優勝の横田君に対して、3 位となった福島さんが「次は負けられないからね」と笑顔でリベンジ宣言していた。とてもさわやかな二人であった。

ちなみに DL の鬼・松本さんは 260-270 と順調に成功、第三試技では日本記



男子 83kg 級、激しい接戦を征したのは、東京の横田選手 (左)、福島選手は 3 位 (右)

録を更新すべく 283kg に挑み見せ場を作ってくれた。パワーの神様・伝説の因幡さんのカエル足 DL に近い独特のスタンスから、長い距離を引き切る松本さんの DL は、その試技を見るだけで観戦して良かったという気持ちにさせてくれる。

こうして初日は終了したが、朝 8:00 の検量開始から、主義終了が何と 22:00 時近くと 14 時間もかかってしまい、9 月の国体に向け、運営上の課題が見つかったという印象である。

22:30 頃から遅い夕食を兼ねた、JPA 宮本会長、佐々木常務理事、小職及び来年度から JPA 役員として運営に携わって下さる事が決定している山口真人氏とで、国体の運営について打合せを行った。

体操競技など、6 種目を同一会場で同時進行するのであるから、PL に関しても一面開催にこだわらず、2 面開催を部分的に採用した方が良いのではないかと結論に至った。

3 月 8 日朝 7:45 に会場入りしたところ、昨日急遽補助に入って下さった浅間成敏さん・北村真由美さんから、「試合プラットフォームを 2M 程、選手控え席方向に動かしました。これで一人 3 秒は短縮でき、65 名×9 試技=585 試技で約 30 分試合時間を短縮できます」という大変に有難いご報告をいただいた。お蔭で二日目はほぼスケジュール道理の時間で協議が進行された。



男子 66kg 級表彰、左から両角選手、井上選手、松永選手

二日目第1・2セッション 男子53・66・74(Sub JR・JR)kg級

53kg級は大接戦であった。STで5kg差ビハインドの森脇滉選手がDL第三試技で182.5kgに成功し逆転優勝(SQ125kg BP80kg TL387.5kg)、2位は丹優樹選手 TL385kgであった。

66kg級サブJRはアジア・オセアニア共催PL大会にも出場した鈴木磐太選手がSQ127.5kg BP110kg DL170kg TL407.5kgで優勝。JRはBグループで出場した洲上靖貴選手がSQ207.5kg BP115kg DL210kg TL532.5kgで優勝。ちなみにDL第三試技で225kgに挑んだ洲上さんは、バーを引く寸前に大きく咆哮、今大会700枚近く写した私の試技写真の中で、ベストショットとなった。2位3位は、林弘一郎選手 TL475kg、東真彦選手 TL457.5kgの慶応大コンビであった。

74kg級サブJRは、村上大河選手がSQ135kg BP80kg DL170kg TL385kgで優勝。2位にはTL360kgで田中眞選手が入った。

同級JRは前川知紀選手がSQ205kg BP115kg DL220kg TL540kgで優勝。2位はTL487.5kgで藤村勇太選手が入った。

66kg級一般ではベストリフター候補の井上雄介選手が登場。調子が今一つの様に見受けられ、9試技中4試技のみ成功、SQ220kg BP160kg DL245kg TL625kgで優勝はであったが、ベストリフターは獲得できなかった。

このクラス2位はアジア・オセアニア共催PL大会で健闘した両角保宏選手がTL560kg、3位には松永一也選手がTL552.5kgで入った。

第2セッション 一般74kg級

何と言ってもノーギアで300kgのDLを引くという比嘉善治選手が注目された。今大会エントリーが発表され、芦原徹選手との対決に期待が高まったが、芦原さんが交通事故のため、今大会出場を回避した事から、両者対決は次回以降のお預けとなった。

その比嘉さんであるが、SQは245kgを第一試技で怪く決めたが、第二、三試技で260kgに失敗。BPは140-147.5と成功し、160kgは失敗。得意のDLは275kgと軽めに入り難なく成功、第二試技291.5kgは引き切れず失敗、第三試技同重量は引き切ったが、途中で一瞬僅かに下がったように思えたが、成功判定で日本記録樹立。TL684kg フォーミュラー496.63でベストリフターも獲得した。芦原選手との比較で言えば、SQ・BPは芦原さんの方が強く、



今大会、私（物江氏）のベストショット、66kg級、ジュニア優勝の洲上選手



93 kg 上から優勝の堀口選手、2 位の風張選手、3 位の西川選手

DL では 20 ～ 30kg 比嘉さんの方が強いという印象。芦原さんが SQ・BP で取りこぼしが無ければ、DL 勝負に持ち込めるという感じであろうか。来年の千葉での同大会、是非とも両雄の対決が実現する事を期待したい。

このクラス 2 位は TL565kg で仲村龍司選手、3 位は 4 位と同記録体重差 TL555kg で栗田栄治選手という結果であった。

第 2 セッション D グループ 93・120 kg 級

93kg 級はメンバーが揃い、接戦となる事が予想された。予想に違わぬ大接戦となりとても見込めがあった。

開始前の本命は風張透選手、対抗が若手の堀口耀介選手、続いて SQ・DL 共に強い西川洋祐選手、同様に二種目強い神野亮司選手が続くものと思われた。

風張君と堀口君の比較では、SQ はほぼ互角、BP は堀口君がやや強く、DL では風張君が強い、TL ではやや風張君が強いのではないかとの見方が一般的であった。

SQ は両選手及び西川さんが三試技とも成功し、西川さんが 267.5kg でトップ、255kg 同記録体重差で堀口君、風張君と続く。BP では風張君が 185kg からスタート、練習で 200kg 以上に成功している堀口君は 187.5kg、共に第一試技を軽く決め、風張君は 190-192.5 と三試技とも成功。堀口君は第二試技 200.5kg の日本記録に挑むが押せず失敗、第三試技でも同重量を獲れなかった。得意の BP で逆に 5kg リードされた堀口君、DL 第一試技 230kg は軽く成功だが、風張君が第一試技 255kg に成功したため TL は 30kg 差にまで広がり、第二試技で堀口君が 245kg に失敗した時には、勝負ありという雰囲気となった。ところが、勝負事は下駄を履くまで判らない。勝利をほぼ確定すべく堅実に 5kg UP の 260kg に挑んだ風張君は第二、第三試技とも失敗。堀口君は第三試技、体重差逆転を賭け第三試技 260kg を申請、気迫を込めてこの重量を引き切り見事大逆転で一般及び JR のダブルチャンプに輝いた。両選手とも TL は 702.5 kg、3 位には DL で 272.5kg を引き復活を印象付けた西川さんが 687.5kg で入った。

サブ JR は對馬瑠衣斗選手が SQ1354 kg BP75 kg DL187.5kg TL397.5kg で優勝した。

120kg 級

大会前に DL の第三試技で日本記録 281kg に挑戦したいと語っていた中島章選手は、躍進の TXP の

若手エース格の選手で、ゴツイ外見にもかかわらず、女子学生ラグビー部のコーチをしていることから会話も面白く、とても好感が持てる選手である。今回安定した試技で DL の第二試技まで 8 試技全部成功し、SQ277.5kg BP177.5kgDL265 TL720kg で優勝は決定、宣言通り DL 第三試技 285kg の日本新に挑んだ。残念ながら最後まで引き切ることが出来ず失敗に終わったが、DL が昨年比で - 15kg であった割には TL も 700kg の大台を超え、まずまずの結果であったのではなかろうか。ただ、BP に於いてプレスコール後に僅かではあるが胸にバーを沈みこませるように見える仕草は、要改善であろう。次回は DL300kg 及び TL750kg を実現して欲しい。

このクラス 2 位は、TL600kg で関口和夫選手が入った。

同級 JR は高野遼太郎選手が SQ192.5kg BP92.5kg DL215kg TL500kg で優勝した。

E グループ 男子 105・+ 120kg 級

105kg 級では、絶対王者の武田祐介選手が TL800kg を実現してくれるかという期待で観戦した。アジア・オセアニア共催 PL 大会で沈み込み不足を指摘された SQ は、改善され第三試技では 302.5kg に成功、遂に大台を突破した。BP で 215kg の力を持つ武田さんにとって TL800kg 超えのため、かなりのアドバンテージを得たと思い、武田さんの BP 第一試技の申請を見ると 190kg、第一試技を確実に低い重量で入り成功試技を重ねていく武田選手のやり方であろうと思ったが第二試技 200kg 成功後、第三試技は 205kg という申請。何故 210.5kg の日本記録に挑まないのだ？ところが武田さんにとって控えめすぎると思われたこの重量、プレス途中でバーが止り、失敗。2 週間前のジャパンクラシック BP 大会で、ピークアウトしてしまったのか？ DL も軽めに入り 250 - 270 と成功、ここまで TL772.5kg

である。ここで第三試技に申請した重量は 287.5kg これに成功すれば TL790kg で 800kg には及ばないが武田さんの自己新記録とはなる。ところがこの重量を引ききれずバーを落とし試技終了。普段の練習で高重量に成功している武田さんを見ている身からすると、大変残念な結果となってしまった。

武田さんの(敢えて言わせていただく)「不振」の原因として、上述した BP のピークアウトの他に、今大会最終セッションまでに、大人数で参戦した TXP 所属選手のセコンドに入ったための疲労が考えられる。阿久津オーナーと武田さんで所属選手のセコンドを分担していたが、やはり肉体的・精神的にかなりの消耗したのではなかろうか？ただ、若干ではあるが、やや精神的に脆いという印象も受けた。

このクラス 2 位は JR とダブルエントリー、TL690kg でアジア・オセアニア共催 PL 大会でも健闘した松澤孝信選手、DL で 300kg 超えを宣言し、第三試技 300.5kg に挑んだが残念ながら失敗であった。3 位は TL672.5kg で落合広樹選手という結果であった。

+ 120kg 級

TXP の同僚で巨漢の二人、海老田旭選手と大坊健選手の同門対決となったが、大坊さん SQ で取りこぼし第二試技 210kg



安定した試技で 120kg 級、優勝。中島選手

のみ成功、対する海老田さん三試技とも成功で 225kg。SQ で海老田さんをリードしたかった大坊さんには苦しいスタートとなった。BP は海老田さんが強く 180.5kg の日本記録に成功、大坊さんは 140kg であった。DL は互いに 2 試技成功で、差は詰まらず、優勝海老田さん TL635.5kg 2 位大坊さん TL575kg という結果となった。

このクラス JR は船水悠樹選手が SQ240kg BP155kg D L 250kgTL645kg で一般の記録を上回り、優勝した。

このレポートを書き上げたのは 3/13 であるが、団体戦の結果発表がまだなく、手元で集計した結果で正確さに不安はあるが、男子優勝 TXP, 女子優勝京都学園大学パワーリフティング部という結果になったものと思われる。TXP は二週間前のジャパンクラシック B P 大会団体戦優勝と併せて、ノーギア全日本大会二冠に輝いた模様である。設立 2 年 8 か月にして素晴らしい快挙と言えるであろう。

国体のプレ大会という事で、地元紙の有田タイムスの女性記者の方が取材で二日間大会を熱心に観戦。山口真人氏や私からパワーリフティング競技ルールや出場選手に関するエピソードなど、熱心に取材され、3 月 11 付の同紙一面の 1/4 のスペースで今大会を紹介して下さいました。

最初にも書かせていただいたが主管の和歌山協会・保富副理事長を中心とした役員の皆様とそれに協力した近畿ブロック各府県の役員の皆様は二日間に渡り献身的に大会遂行に邁進された。J P A に関わる一人として深く感謝申し上げます。

「皆さん、本当にお疲れ様でした。9 月の国体公開競技でも、何卒宜しくお願い致します！！」

クラブ対抗戦

男子

一位 TXP 50 点
二位 岡山大WT部 33 点
三位 ノーリミッツ 28 点
四位 マッスルプロダクション 24 点
五位 京都府立農芸高校PL部 23 点
六位 アサマTC 23 点

都道府県対抗

男子

一位 東京都 57 点
二位 兵庫県 40 点
三位 神奈川県 38 点
四位 千葉県 37 点
五位 愛知県 21 点
六位 静岡県 17 点

女子クラブ対抗

一位 京都学園大学PL部 39 点
二位 TXP 24 点
三位 アサマTC 20 点

女子都道府県対抗

一位 神奈川県 41 点
二位 東京都 39 点
三位 埼玉県 27 点



男子クラブ対抗戦を制したTXPコーチ、105kg級優勝、武田選手

第19回ジャパンクラシックパワーリフティング選手権大会

平成27年3月7日～8日 和歌山県広川町民体育館

クラス 階級	順位	氏名	チーム	生年	体重	F係数	Squat	Bench	Dead lift	記録 Total	F記録
一般女子											
47kg級	1位	可児 理恵	フェニックスジム	1979	46.5	1.3553	110	72.5	147.5	330.0	447.24
52kg級	1位	古屋 典子	個人	1971	51.6	1.2541	120.5	98.5	142.5	361.5	453.35
	2位	中田 佳見	岩崎BC津山	1971	49.4	1.2964	75	57.5	110	242.5	314.38
	3位	吉見 喜代子	個人	1952	50.8	1.2692	85	30	102.5	217.5	276.05
	4位	糸井 千都香	TXP	1972	51.4	1.2578	77.5	47.5	82.5	207.5	261.00
57kg級	5位	松井 陽子	個人	1965	49.9	1.2866	45	52.5	100	197.5	254.10
	1位	居鶴 直子	MAT	1976	55.6	1.1832	110	70	155	335.0	390.47
	2位	光部 和子	パワーフィットネス	1978	55.4	1.1866	115	70	125	310.0	367.84
	3位	寺村 美香	リアルスイング	1962	53.3	1.2230	95	75	125	295.0	360.78
	4位	淵上 宏恵	スーパーパワーアサマトレーニングクラブ	1967	56.3	1.1717	100	65	125	290.0	339.79
	5位	前野 由衣	個人	1989	56.7	1.1652	80	55	120	255.0	297.13
	—	木村 初子	アサマトレーニングクラブ	1951	54.6	1.2002		50	152.5		
63kg級	1位	北村 真由美	スーパーパワーアサマトレーニングクラブ	1967	62.7	1.0779	151	103	171	425.0	458.09
	2位	林 久子	雷神ファクトリー	1951	62	1.0871	120	67.5	130	317.5	345.16
	3位	中島 美代子	BODY ART DESIGN	1948	61.9	1.0884	92.5	55	115	262.5	285.72
	4位	吉原 千恵	個人	1977	60.3	1.1106	90	57.5	112.5	260.0	288.75
72kg級	1位	上田 早穂	ちからこぶ	1980	68.4	1.0110	150	90	160	400.0	404.42
	2位	鈴木 恭子	トレーニングジムZERO IN	1977	65.8	1.0397	132.5	65	145	342.5	356.09
	3位	金子 睦	TXP	1986	66.3	1.0339	115	62.5	135	312.5	323.11
	4位	後藤 啓恵	リアルスイング	1966	68.2	1.0131	77.5	40	97.5	215.0	217.82
84kg級	1位	齊藤 ゆき	個人	1989	83	0.8972	132.5	71	140	343.5	308.18
	2位	曲澤 彩香	TXP	1982	83.2	0.8961	95	60	110	265.0	237.46

第28回全日本教職員パワーリフティング選手権大会

平成27年3月7日～8日 和歌山県広川町民体育館

クラス 階級	順位	氏名	チーム	生年	体重	F係数	Squat	Bench	Dead lift	記録 Total	F記録
59kg級	1位	中出 裕己	個人	1984	58.68	0.8706	120	100	180	400.0	348.23
83kg級	1位	富永 忠秀	個人(至学館高等学校)	1970	80.54	0.6798	225	140	220	585.0	397.70
	2位	門屋 聡太	松山市立北中学校	1990	82.72	0.8987	190	125	170	485.0	435.88
	3位	堀切 遼一	日野市立平山小学校	1990	80.62	0.6794	185	107.5	190	482.5	327.81

第19回ジャパクラシックパワーリフティング選手権大会

平成27年3月7日～8日 和歌山県広川町民体育館

クラス 階級	順位	氏名	チーム	生年	体重	F係数	Squat	Bench	Dead lift	記録 Total	F記録
サブジュニア女子											
57kg級	1位	浦野 萌々	草加高校	1998	54.3	1.2054	65	40	80	185.0	222.99
サブジュニア男子											
59kg級	1位	津崎 琳	京都府立農芸高等学校パワーリフティング部	1998	57.36	0.8895	150	70	185	405.0	360.24
74kg級	1位	村上 大河	個人	1997	71.1	0.7406	135	80	170	385.0	285.13
	2位	田中 眞	京都府立農芸高等学校パワーリフティング部	1998	72.16	0.7325	120	90	150	360.0	263.70
83kg級	1位	伊藤 直登	十勝パワーリフティング協会	1997	77.92	0.6944	200	140	200	540.0	374.96
93kg級	1位	對馬 瑠衣斗	東奥義塾高等学校	1998	89.18	0.6414	135	75	187.5	397.5	254.96
ジュニア女子											
43kg級	1位	根本 梢	個人	1992	42.8	1.4338	75	50	125	250.0	358.45
47kg級	1位	早川 琴果	阪南大学	1995	46.8	1.3490	70	65	110	245.0	330.51
52kg級	1位	南 采沙	京都学園大学パワーリフティング部	1993	51.3	1.2597	87.5	95	100.5	280.5	353.35
57kg級	1位	堤 彩夏	京都学園大学パワーリフティング部	1995	56.7	1.1652	100	55	143	298.0	347.23
	2位	寺石 知央	京都学園大学パワーリフティング部	1993	56.4	1.1701	92.5	70	125	287.5	336.39
63kg級	1位	寺原 万留々	京都学園大学パワーリフティング部	1993	62.6	1.0792	150	75	160	385.0	415.48
72kg級	1位	窓場 加津紗	京都学園大学パワーリフティング部	1996	69.6	0.9988	145.5	80.5	165	391.0	390.53
ジュニア男子											
53kg級	1位	森脇 滉人	岡山大学ウエイトトレーニング部	1995	53	0.9621	125	80	182.5	387.5	372.80
	2位	丹 優樹	スーパーパワーアサマトレーニングクラブ	1993	52.58	0.9700	120	90	175	385.0	373.45
59kg級	1位	山本 進吾	慶応義塾大学	1994	58.64	0.8711	160	82.5	190	432.5	376.76
	2位	谷澤 直紀	個人	1995	58.84	0.8684	142.5	102.5	160	405.0	351.69
	3位	鈴木 康之	F・T・GYM	1996	58.88	0.8678	120	105	170	395.0	342.79
66kg級	1位	淵上 靖貴	マッスルプロダクション	1992	65.22	0.7930	207.5	115	210	532.5	422.25
	2位	林 弘一郎	慶応義塾大学	1994	65.46	0.7905	165	110	200	475.0	375.51
	3位	東 真彦	慶応義塾大学重量挙部	1995	64.7	0.7983	170	110	177.5	457.5	365.22
	4位	田口 洋助	岡山大学ウエイトトレーニング部	1993	63.46	0.8115	152.5	95	185	432.5	350.99
	5位	鈴木 馨太	東奥義塾高等学校	1996	64.62	0.7991	127.5	110	170	407.5	325.64
	ー	上田 孝道	個人	1993	65.2	0.7932		120			
74kg級	1位	大島 逸生	TEAM REDVOLTAGE	1992	73.24	0.7246	190	135	220	545.0	394.93
	2位	前川 知紀	京都学園大学パワーリフティング部	1994	73.9	0.7200	205	115	220	540.0	388.80
	3位	藤村 勇太	岡山大学ウエイトトレーニング部	1994	70.92	0.7420	185	102.5	200	487.5	361.73
83kg級	1位	古川 潤	京都府立農芸高等学校パワーリフティング部	1996	81.44	0.6752	230	112.5	260	602.5	406.79
	2位	西本 翔	岡山大学陵門会	1992	80.12	0.6821	180	125	260	565.0	385.36
	3位	渡部 泰弘	岡山大学ウエイトトレーニング部	1992	82.24	0.6712	210	115	232.5	557.5	374.18
	4位	坂本 寛明	TXP	1996	81.4	0.6754	200	122.5	210	547.5	369.77
	5位	齊藤 恵太	京都学園大学パワーリフティング部	1993	79.76	0.6840	150	110	100	460.0	314.64
93kg級	1位	堀口 耀介	青山学院大学	1993	92.56	0.6296	255	187.5	260	702.5	442.30
105kg級	1位	松澤 孝信	首都大学東京	1992	102.52	0.6028	250	147.5	292.5	690.0	415.90
	2位	佐野 誓建	京都学園大学パワーリフティング部	1995	101.8	0.6044	230	130	290	650.0	392.84
120kg級	1位	高野 遼太郎	岡山大学ウエイトトレーニング部	1995	107.52	0.5928	192.5	92.5	170	455.0	269.71
+120kg級	1位	船水 悠樹	スーパーパワーアサマトレーニングクラブ	1993	132.8	0.5635	240	155	250	645.0	363.46

第19回ジャパクラシックパワーリフティング選手権大会

平成27年3月7日～8日 和歌山県広川町民体育館

クラス 階級	順位	氏名	チーム	生年	体重	F係数	Squat	Bench	Dead lift	記録 Total	F記録
一般男子											
59kg級	1位	蛭原 孝晴	個人	1980	58.48	0.8734	191	140	215	546.0	476.85
	2位	大谷 剛史	マッスルプロダクション	1988	58.7	0.8703	175	122.5	220	517.5	450.38
	3位	古賀 翔太	個人	1990	58.88	0.8678	182.5	110	180	472.5	410.04
	4位	小林 勉	個人	1987	57.98	0.8804	152.5	105	205	462.5	407.20
	5位	池村 正樹	個人	1974	58.94	0.8670	150	120	182.5	452.5	392.31
	6位	与那覇 康志	個人	1990	58.82	0.8686	175	105	170	450.0	390.89
	7位	中出 裕己	個人	1984	58.68	0.8706	120	100	180	400.0	348.23
66kg級	1位	井上 雄介	雷神ファクトリー	1981	65.7	0.7881	220	160	245	625.0	492.59
	2位	両角 保宏	個人	1977	65.28	0.7924	192.5	130	237.5	560.0	443.72
	3位	松永 一也	MAT	1975	65.68	0.7883	190	120	242.5	552.5	435.56
	4位	淵上 靖貴	マッスルプロダクション	1992	65.22	0.7930	207.5	115	210	532.5	422.25
	5位	湯川 和幸	ダイドースポーツクラブ	1983	65.56	0.7895	157.5	115	235	507.5	400.69
	6位	高橋 和行	個人	1978	63.66	0.8093	180	120	200	500.0	404.67
	7位	武田 アユム	TXP	1979	64.28	0.8027	162.5	112.5	210	485.0	389.31
	8位	永井 朋広	F・T・GYM	1965	65.18	0.7934	180	105	200	485.0	384.78
	9位	吉原 健太	ノーリミッツ	1979	65.48	0.7903	155	115	185	455.0	359.61
	10位	沖田 夏樹	TXP	1985	65.14	0.7938	150	105	190	445.0	353.23
	11位	道上 憲司	個人	1968	64.82	0.7970	147.5	115	180	442.5	352.69
	12位	上野 辰彦	個人	1976	64.14	0.8042	155	100	175	430.0	345.80
74kg級	1位	比嘉 善浩	TEAM Gutei	1991	73.04	0.7261	245	147.5	291.5	684.0	496.63
	2位	仲村 龍治	個人	1981	73.68	0.7215	192.5	157.5	215	565.0	407.67
	3位	栗田 栄治	個人	1966	73.48	0.7229	220	135	200	555.0	401.23
	4位	山本 航平	個人	1991	73.74	0.7211	200	135	220	555.0	400.22
	5位	平野 雅之	新潟トレーニングセンター	1976	72.94	0.7268	190	100	260	550.0	399.73
	6位	大島 逸生	TEAM REDVOLTAGE	1992	73.24	0.7246	190	135	220	545.0	394.93
	7位	田邊 純	チーム鉄腕	1979	73.18	0.7251	180	132.5	220	532.5	386.10
	8位	村田 健太郎	個人	1976	73.1	0.7256	160	105	210	475.0	344.68
	9位	川西 司	TEAM REDVOLTAGE	1977	73.44	0.7232	155	120	200	475.0	343.53
	10位	山本 了祐	マッスルプロダクション	1980	73.7	0.7214	170	115	190	475.0	342.66
	11位	梅津 昌也	PEAS GYM	1987	71.34	0.7387	145	100	200	445.0	328.74
	—	西村 直樹	トレーニングジムKENKODO	1987	73.14	0.7254		110	200		
	—	水野 直樹	個人	1971	73.52	0.7227	220	90			

第19回ジャパクラシックパワーリフティング選手権大会

平成27年3月7日～8日 和歌山県広川町民体育館

クラス 階級	順位	氏名	チーム	生年	体重	F係数	Squat	Bench	Dead lift	記録 Total	F記録
一般男子83kg級											
	1位	横田 正敏	個人	1989	80.66	0.6792	235	150	265	650.0	441.48
	2位	日高 豪志	ゴールドジム名古屋金山	1986	82.1	0.6719	232.5	152.5	262.5	647.5	435.03
	3位	福島 勇輝	F・T・GYM	1986	81.5	0.6749	220	195	220	635.0	428.54
	4位	松本 一人	ゴールドジム成田千葉	1979	82.78	0.6686	235	115	270	620.0	414.50
	5位	永井 肇	個人	1984	81.58	0.6745	225	130	255	610.0	411.42
	6位	信田 泰宏	個人	1988	82.1	0.6719	210	190	210	610.0	409.84
	7位	富永 忠秀	個人(至学館高等学校)	1970	80.54	0.6798	225	140	220	585.0	397.70
	8位	藤枝 幸司	愛知県警察バーベルクラブ	1982	82.44	0.6702	200	145	240	585.0	392.07
	9位	梶原 広大	エイブル岡山	1991	78.72	0.6898	200	130	245	575.0	396.62
	10位	野口 新之介	ゴールドジム柏千葉	1978	80.5	0.6800	200	107.5	242.5	550.0	374.02
	11位	馬倉 実	スリムパワージム	1966	82.02	0.6723	215	122.5	210	547.5	368.06
	12位	義田 大峰	TXP	1988	82.58	0.6695	190	155	200	545.0	364.89
	13位	田村 僚馬	個人	1984	82.52	0.6698	160	127.5	240	527.5	353.32
	14位	片桐 圭一	個人	1982	80.72	0.6789	190	115	220	525.0	356.41
	15位	村上 貴信	個人	1989	81.14	0.6767	190	135	200	525.0	355.27
	16位	森 厚友	ESQUATIR(エスクアティア)	1980	78.06	0.6936	180	120	210	510.0	353.72
	17位	原田 勢司	個人	1961	78.8	0.6893	177.5	115	217.5	510.0	351.55
	18位	庄子 信孝	個人	1975	79.4	0.6860	185	142.5	180	507.5	348.13
	19位	石沢 剛司	フィットネスジムセルシー	1985	79.08	0.6877	165	115	225	505.0	347.31
	20位	大谷 朋男	ノーリミッツ	1961	82.58	0.6695	185	120	185	490.0	328.06
	—	川畑 義貴	ステイヤング	1987	82.74	0.6687	-185				
93kg級	1位	堀口 耀介	青山学院大学	1993	92.56	0.6296	255	187.5	260	702.5	442.30
	2位	風張 透	ノーリミッツ	1988	92.78	0.6289	255	192.5	255	702.5	441.80
	3位	西川 洋祐	個人	1985	92.36	0.6303	267.5	147.5	272.5	687.5	433.31
	4位	神野 亮司	MBC POWER	1981	89.74	0.6393	230	155	257.5	642.5	410.77
	5位	花田 俊博	マッスルプロダクション	1991	91.84	0.6320	210	150	250	610.0	385.52
	6位	持田 俊彦	ストロングライン	1983	88.56	0.6437	205	140	255	600.0	386.24
	7位	可児 暢也	フェニックス ジム	1979	92.38	0.6302	185	135	215	535.0	337.16
105kg級	1位	武田 裕介	TXP	1985	103.48	0.6007	302.5	200	270	772.5	464.03
	2位	松澤 孝信	首都大学東京	1992	102.52	0.6028	250	147.5	292.5	690.0	415.90
	3位	落合 広樹	スーパーパワーアサマトレーニングクラブ	1989	97.32	0.6155	232.5	170	270	672.5	413.90
	4位	平井 勇輝	個人	1984	101.8	0.6044	230	157.5	252.5	640.0	386.79
	5位	日垣 宏章	ノーリミッツ	1981	104.18	0.5992	220	155	222.5	597.5	358.03
	6位	山田 哲也	個人	1989	93.02	0.6281	215	140	230	585.0	367.45
	7位	西田 昇一郎	新日鉄住金君津ボディビル同好会	1976	102.84	0.6021	200	140	240	580.0	349.19
	8位	富永 雷路	ノーリミッツ	1964	103.24	0.6012	220	120	240	580.0	348.69
	9位	二宮 正晴	デンソー刈谷	1961	103.52	0.6006	185	147.5	227.5	560.0	336.33
120kg級	1位	中嶋 章	T×P	1986	113.6	0.5830	277.5	177.5	265	720.0	419.75
	2位	関口 和矢	リアルスイング	1979	118.96	0.5761	230	150	220	600.0	345.66
*120kg級	1位	海老田 旭	TXP	1979	131.42	0.5645	225	180.5	230	635.5	358.75
	2位	大坊 健	TXP	1976	136.22	0.5612	210	145	220	575.0	322.67

男子MVP 比嘉善浩(一般74kg級)

女子MVP 北村真由美(一般63kg級)